

福島ロータリークラブ会報

vol. 39
2018.6.21 thu

Rotary


ロータリー:
変化をもたらす

TODAY'S PROGRAM

2017-18 RI 会長 イアン H.S. ライズリー

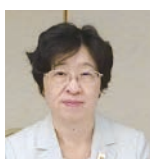
<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日 12:30
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

地区研修・協議会 報告 (ロータリー財団委員会: 長谷部一雄 会員) (米山記念奨学会: 古俣 猛 会員)

福島大学プレゼン「川内村農業六次化の学生による挑戦」

会長あいさつ



2017-18 年度会長 森岡 幸江

今週は、サッカー日本代表の活躍という嬉しいニュースもありましたが、大阪の地震には驚きました。ブロック塀の倒壊により尊い命が奪われ、生活インフラの混乱に、過去の災害の経験はなかなか活かされないものだと感じました。

東日本大震災から、7年がたちましたが、本日お越しの福島大学では、震災で心を痛めている子どもたちのために、「子どものメンタルヘルス支援事業」をいち早く立ち上げました。平成26年の丹治会長年度より、そのご支援をはじめ本年度で4年間の支援期間が終了します。将来を担う子どもたちのための活動に、些少ではございますがご支援できたことは何よりの喜びです。また、本年度も福島大学の寄付講座を開催しており、会員の皆様には講師としてそれぞれの分野の講義をお願いしておりますが、本日は学生さんが取り組んでいる「川内村農業六次化の学生による挑戦」についてプレゼンして頂きます。宜しくお願いします。

林会員、信国会員には例会、委員会にご参加いただき有難うございました。寂しくなりますが、また東京交歓会で目にかかれることを願っております。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

本日は前回に引き続き、地区研修・協議会の報告を長谷部会員、古俣会員にお願いしております。先日の分区分会幹事会にて、中央ロータリークラブ梅津会長より、改めてホストを務めた当クラブに御礼のお言葉がありましたことを申し添えます。

例会次第

開会点鐘

森岡幸江 会長

ロータリーソング 「我等の生業」

ソングリーダー 渡邊又夫 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業 推進室副室長 生島 浩 様

福島大学人間発達文化学類文化探求専攻 教授 小島 彰 様

福島大学 秋戸優花 様

福島大学 浅野晋平 様

ミス・アース福島県代表 佐々木海帆 様

ミス・アース事務局 堀江結佳 様

目録贈呈

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業 推進室副室長 生島 浩 様

退会あいさつ

林 隆壽 会員

信国一朗 会員

会長あいさつ

森岡幸江 会長

食事

幹事報告

相良元章 幹事

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会 ニコニコBOX担当

丹羽和也 委員

◎本日のプログラム

閉会点鐘

森岡幸江 会長

例会変更のお知らせ

●福島西RC、25日(月)の例会は18時30分よりエルティにて夜間例会となります。

●福島北RC、26日(火)の例会は理事会承認休会となっております。

その他のお知らせ

●6/27(水)福島学院大学ローターアクト表彰式に森岡会長、相良幹事、河田亨会員が出席されます。

●本日18時30分より石林にてTENの会が開催されます。宜しくお願い致します。



長谷部一雄 会員

5/19(土)に開催された地区研修・協議会のロータリー財団委員会と学友平和フェローシップ委員会の分科会に出席しましたので、その概要について報告させていただきます。

なお、学友・平和フェローシップ委員会はこれまでロータリー財団委員会の中の小委員会でしたが、次年度から委員会として独立することになりました。

最初に財団の早川委員長、右近補助金委員長等から次年度の地区目標について、財団活動の両輪のひとつ「寄付を集める活動」については、1人150ドル以上の年次基金とEND POLIO NOWの最終段階へのスタート年度として1人30ドル以上の寄付、さらにこれにプラスして恒久基金となるベネファクターを各クラブ1名の協力をそれぞれお願いしたいということでした。

次に、「寄付金を使う活動」については、年次寄付金額(3年前)の50%が地区財団活動資金(DDF)に、残り50%が国際財団活動資金(WF)に還元され、更に地区財団活動資金(DDF)については地区補助金に50%、残り50%がグローバル補助金に使われるというシステムになっているので、各クラブがこれを積極的に活用し、実りあるクラブ活動を期待したいということでした。

これら資金の活用状況については、まず、地区補助金については、1クラブ1プロジェクトが理想で、現状申請クラブは地区66クラブのうち、37クラブに上っているとのことでした。

もっとも、地区補助金として還元される資金は、8万ドル程度あるが奨学金に2万ドル等が支出されることとなっているので、クラブ利用可能額は5万ドル程度なので、出来れば地区補助金50%での資金計画をつくっていただければ大変ありがたいということでした。

一方、グローバル補助金については、2カ国以上のクラブ地区がプロジェクトを共同提唱することが基本要件となっているうえ、国際財団活動資金(WF)が絡むこともあって審査基準が厳しいことから案件は皆無に近く、地区で進行しているプロジェクトは、中央分区分属の財団の早川委員長の所属する郡山北RC等の10のロータリーで実施している「…東日本大震災復興支援事業」だけとのことでした。



古俣 猛 会員

①地区奨学生割当について

2018学年度：820名採用枠

820名枠－海外学友会推薦奨学金4名枠

海外応募者対象奨学金31名枠

＝割当数785名枠→34地区に分配

・海外学友会推薦奨学金4名

台湾・韓国・中国の学友会の選考委員会が

現地で募集選考および可否決定

・海外応募者対象奨学金31名

2018年度は「促進期間」として、別枠で全国15名

確保され、2017年度に採用された枠外16名と合

わせて31名が別枠となっています。

割当数をどのように34地区に割り当てるのか？

(2018学年度割当についての変更点)

○寄付総額での割当により一層重点が置かれました！

○新要素「特別寄付者割合」が加わりました！

○配当金収入相当採用数42名が別に全国に配分されています！

(785名－42名＝743名)

割当数743名を以下(1)～(4)の比率で

34地区に割り当てる。

(1) 743名の10%(74名)を地区別有資格者比率で34地区に割り当てる

(2) 743名の30%(223名)を地区別個人平均寄付額比率で34地区に割り当てる

(3) 743名の50%(372名)を地区別寄付総額比率で34地区に割り当てる

(4) 743名の10%(74名)を地区特別寄付者割合比率で34地区に割り当てる

有資格者数

学校アンケート(毎年5月実施)に学校担当者が回答した米山奨学金に応募資格がある学生人数

個人平均寄付額

2016年6月末(2015年度)の個人平均寄付額
普通寄付と特別寄付の合計を1月1日の会員数で割って算出。

寄付総額

2016年6月末(2015年度)の寄付総額
普通寄付と特別寄付の合計

特別寄付者割合

2016年6月末(2015年度)の特別寄付者割合
特別寄付者数を前年1月1日の会員数で割って算出。
2018学年度の採用数は2017年6月の理事会で決定するため、直近で確定している寄付実績は2015年度のものとなります。
地区ごとに上記4要素を合計し、各合計値の小数点以下を切り捨て、余剰を引き出す。

●余剰を再分配する

2017学年度からは寄付合計を上記の(1)+(2)+(3)+(4)の数字で割った一人あたりの奨学生獲得寄付額概算額の是正に使用します。200万円を超える地区に1名ずつ配分し、さらに余剰が出た場合は個人平均寄付額増加率の高い地区に配分する。

●配当金収入(見込)相当額

2016年9月に譲渡された株式の配当金見込額相当の採用数42名のうち、まず1名ずつすべての地区に配分します。残りの8名を株式譲渡元であるSDF社の所在地区(2760)に配分します。
2018年度 第2530地区割当数
(1)+(2)+(3)+(4)=15.961370816=15名
余剰再分配1名 配当金収入相当額配分1名
(格差是正)割当数=17名

②米山記念奨学会の重要性

日本のロータリーはなぜ留学生を支援しつづけるのか?「あんまりお金に困ってなさそう…」「反日国からの留学生にお金を出したくない」「かけ橋って聞こえはいいけど実際は?」「むしろ日本の若者が心配…」

最近の私費留学生には、いわゆる「苦学生」のイメージはない学生もいます。これは日本の入国管理局が留学中の経費を支払えると判断した人のみ留学を許可しているという現実があるようです。

ここで、ひとつのエピソードをご紹介します。

日本で初めての青少年交換が行われたのは1962年、オーストラリアとの交換でした。これを実現させたのは、第二次世界大戦で、日本との戦いで両目を失ったオーストラリア人でした。戦後ロータリアンになった彼は戦争の愚かさ、平和の大切さを訴え、かつての敵国・日本との友好親善を回復することが急務であると考えたのです。「次の時代を担う日豪の若者を育てることによって戦争の悲劇を乗り越えたい」それが、彼の願いでした。日本の米山奨学事業も二度と戦争の悲劇を繰り返

さない、そして世界の人々と友情を育むという強い想いがあります。

また「中国の学生が多すぎる」という声も時々ありますが、現在、日本にいる留学生の約40%が中国人なので絶対数が多いことをまずご理解をください。

2010学年度より、公平性の観点から中国・韓国の学生に対する米山奨学生の応募制限を撤廃していることも申込・合格者の国籍内訳に影響しています。

また実際にやはり中国人の方々は優秀な方が多いようです。国籍バランスを考えて推薦してもらうよう各大学にお願いをしたり、選考の際は優秀性を重視しつつも1ヶ国に偏らないようにするなど、いろいろな努力もされているようであります。今、皆さんの周りには中国人奨学生は、本当に高い競争率のなかで選ばれた人たちであるということをご理解をいただきたいと思います。

子どものメンタルヘルス支援事業への助成についての御礼



福島大学子どものメンタルヘルス
支援事業推進室副室長

生島 浩 様

2011年の東日本大震災後、福島県では長期化した避難生活の影響が依然として残り、メンタル面でハイリスクな子どもとその家庭の問題が顕在化しています。福島大学では、これらの子どもと家庭を支援するための専門的機関として、2014年4月より「子どものメンタルヘルス支援事業」を開始しました。以降、臨床心理を専門とする特任准教授と特任助教、児童精神医学・発達心理を専門とする客員教授、そして、兼任教授、研究員・事務職員も加えた計11名のスタッフにより活動を行っています。

障害や疾病、問題行動のある特別なリスクを抱える子どもたちとその家庭を対象に専門的な支援を行うとともに、調査・研究による支援方法の開発、支援者や支援活動をコーディネートする能力を持つ人材の育成を行うことを目的として取り組んでまいりました。ご寄贈いただいた車やその維持費の助成により、被災地にこちらから出向き、学校等で支援活動を行う「アウトリーチ」と呼ばれる手法を駆使して、早期発見とその支援が可能となり、多大な効果を上げることができました。

国のプロジェクトは5年間で一区切りがつかますが、福島の子どものメンタルヘルスへの支援活動の必要性はまったく減じていないことは明らかです。今年度を最終年度とすることのないよう、現在、福島県をはじめ関係市町村との協議を続けております。変わらぬご支援を切に、切にお願いする次第です。

福島大学プレゼン「川内村農業六次化の学生による挑戦」

福島大学人間発達文化学類
文化探求専攻 教授

こじま あきら
小島 彰 様

福島大学

あきと ゆうか
秋戸 優花 様

福島大学

あさの しんぺい
浅野 晋平 様

川内村農業六次化プロジェクト 立ち上げまで

地域実践型学習「むらの大学」
の経験から



川内村農業 六次化プロジェクト

福島大学 3年 人間発達文化学類 秋戸優花
経済経営学部 小野菜菜
行政政策学類 武石優大
理工システム学類 大塚達太
石川亮造 柳内なつ
渡邊尚貴 野村直
藤田龍斗

活動内容

～ 川内村農業六次化プロジェクトを構成する
3つのアグリストーリー ～

特別栽培米

酒米

白エゴマ

川内村農業の現状

<平成28年度>

- ・水稲作付面積：193ha→震災前280ha(約7割)
- ・水稲作付農家戸数：100戸→震災前310戸(1/3)
- ・不作付地面積：205ha→震災前63ha(3倍超)
- ・畜産農家戸数：8戸→震災前35戸(1/5)
- ・家畜牛頭数：105頭→震災前156頭(1/2)

特別栽培米



5月 田植え
10月 稲刈り

- ①「東北うまいもの祭」販売PR
((株)文化シャッター本社)
- ② 福島大学祭でのPR
- ③ かわうち100%フェア
(福島大学生協内)

川内村農業の課題と取り組み

<課題>

- ① 担い手の不足
- ② 耕作放棄地の増加
- ③ 風評被害

<取り組み>

- ① 農地除染の実施
- ② 保全管理費用の助成
- ③ とも洗い玄米の買い上げ
- ④ 米の全量全袋検査
- ⑤ 集落営農組織等

特別栽培米

- ①「東北うまいもの市」
(株)文化シャッター本社



- ②福島大学 大学祭

川内村農業六次化チーム発足

農家の思いが伝わるような
ストーリー性のある活動をして欲しい

当たり前のことを確実にやることが
ブランド化だ！

川内村役場産業振興課農政係長
遠藤一美さん



特別栽培米

- ③かわうち100%フェア
(福島大学生協前)



酒米



5月 田植え
7月 大和川酒造訪問見学
会長 佐藤寛右衛門氏との会談
10月 稲刈り
11月 酒名考案
12月 住民へ酒名投票呼びかけ
1月 ラベル&化粧箱デザイン決定
2月 日本酒仕込み開始、仕込みツアー実施
3月 完成お披露目会



白エゴマ

▶加工品作り



▷川内村広報誌
11月号に掲載



酒米

▶酒名の住民投票を温泉施設「かわうちの湯」と川内村役場前で行った、



活動評価

- ・特別栽培米
→ ブランド化による風評被害の払拭、耕作放棄地の有効活用、やりがいのある農業の再興
- ・酒米
→ 川内村へ新事業、持続・発展可能な事業の誘致ができた、耕作放棄地の有効活用
- ・エゴマ
→ 振興作物の活性化、村民へエゴマの魅力の周知

酒米

日本酒の名は...

かえるのうたげ

「歸宴」

帰村の「帰」の旧字体
モリアオガエルの「カエル」

村民が楽しげに盛り上がっているさまを「宴」で表す

開票の様子を福島テレビで生中継されました!!

評価

学生と取り組むことで多面的な見方、発想ができるようになったことが大きい。
学生と一緒に単純に元気が出た。

(株)緑里 代表取締役社長
河原 修一さん



遠藤一美さん

飼料米から特別栽培米「里山のつづ」の作付けが拡大し、エゴマの作付けも5.5ha拡大。酒米は村を挙げての一大プロジェクトへと成長した。学生が関わることで、村内外からの注目を集めることが大いにできた。

白エゴマ



6月 苗植え
9月 白エゴマの収穫
白エゴマの葉を使った加工品作り
10月 白エゴマ収穫
1月 白エゴマの実を使った加工品作り



川内村ワイン事業



お客様並びに来訪ロータリアン紹介



●福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室副室長

しょうじま ひろし
生島 浩 様

●福島大学人間発達文化学類文化探求専攻教授

こじま あきら
小島 彰 様

●福島大学
あきと ゆうか
秋戸 優花 様

●福島大学
あさの しんぺい
浅野 晋平 様

●ミス・アース福島県代表
佐々木海帆 様

●ミス・アース事務局
堀江 結佳 様

例会プログラムのご案内

7月5日(木) 12:30 ~ 辰巳屋

通常例会

●ガバナー補佐・県北第一分区会長幹事来訪

7月12日(木) 18:30 ~ 辰巳屋

新旧役員慰労夜間例会

7月19日(木) 祝日の週のため休会

7月26日(木) 12:30 ~ 辰巳屋

通常例会

●浦部博 会長スピーチ ●増子勉 幹事スピーチ

退会あいさつ


●(株)テレビユー福島
代表取締役社長
信国 一朗 会員

●東北電力(株)
執行役員 福島支店長
林 隆壽 会員

目録贈呈


●福島大学子どものメンタル
ヘルス支援事業推進室
副室長

生島 浩 様

ニコニコBOX 報告

本日のニコニコBOX投入額 26件 ¥61,000 累計 ¥2,415,000

〈報告〉 丹羽 和也 委員

森岡 幸江 会長

大阪の地震に御見舞申し上げます。林会員、信国会員、長い間有難うございました。益々のご活躍をお祈りします。

福島大学の学生さんのプレゼン楽しみにしております。

相良 元章 幹事

サッカーワールドカップ、コロンビア戦やりました！同点になった時は一瞬イヤな記憶が蘇りましたが、さすがです。

瞬間最高視聴率55.4%にはびっくりしました。ガンバレニッポン!! 半端ないって…流行語大賞。

林 隆壽 会員

3年間、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。福島ロータリークラブの今後ますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。

信国 一朗 会員

4年間お世話になりました。東京での会には参加したいと思っています。

渡邊 又夫 会員

林会員と信国会員のご栄転を祝して。素晴らしい思い出を残してくださったことに感謝します。

鈴木 仁 会員

信国社長、大変お世話になりました。W杯でのセネガル戦、勝利を祈りつつ…。

私のひとこと

吉田 大樹 会員



日光国立公園、那須平分の森(天皇陛下の那須御用邸、約半分の敷地を使用し平成23年に開園)に家族と行き、ガイドウォーク限定の自由な立ち入りが制限されている場所に行ってきました。人がほとんど入らない、自然のままおかれてきた場所です。

家族と、ガイドのみなので、自然の音しか聞こえません。風で木が揺れる音、川のせせらぎの音、カエルの鳴き声、鳥が警戒している鳴き声、求愛している鳴き声も教えていただきました。人工物が一切ない、ありのままの自然に入り貴重な経験をし、普段から(特にゴルフの時など)鳥の鳴き声等に少し敏感になりました。妻と娘がいるからこそ出かける場所です。家族に感謝です。

友田 久也 会員

W杯、サッカー勝利おめでとう！福島RCも負けずに頑張りましょう。

黒崎 浩一 会員

イオンモール小名浜へ行ってきました。福島産、いわき産の地元商品を上手に展開していました。全体に非常に「コンパクト」なモールでした。

熊坂 仁美 会員

本日、福島大学連携寄付講座でお話してきました。双葉郡川内村のワイナリーのSNS発信の企画を学生にレポートしていただきました。素晴らしいアイデアが沢山あり、事業者様にフィードバックさせていただきます。

後藤 浩之 会員

昨日、この辰巳屋様で福島競馬場開設100周年記念式典を滞りなく行わせていただきました。これからも、福島のためいい競馬をお届けします。

他クラブ会員より 幡 研一/佐藤英典/三宅 喬/加藤義朋/茂田士郎/坪井大雄/内池 浩/加納武志/岡田新也/古俣 猛/佐藤美奈子/田沼紀美子/佐藤良智/増子 勉/安藤健次郎/白岩康夫